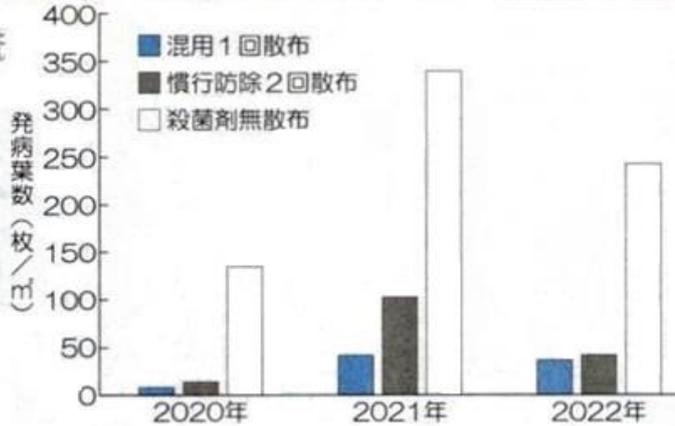


現場で使える！研究成果

茶の炭疽病防除に効果 保護殺菌剤とQoI剤 2葉期に混用1回散布

図 散布方法の違いによる炭疽病発病葉数



茶の重要病害である炭疽病は、降雨などにより新芽が10時間以上濡れることで感染が助長され

る。秋芽生育期の炭疽病防除は、萌芽期に保護殺菌剤、3葉期に治療効果のあるDMI剤を散布

炭疽病の多発



するが、萌芽期に降雨が続く場合、散布時期を逃してしまい炭疽病が多発する状況が生じている。そこで、多雨期に炭疽病を効率的に防除するため、2葉期に保護殺菌剤と治療効果が認められるQoI剤の混用1回散布の防除効果を調査した。

その結果、2葉期にスクレアフロアブルとダコニール1000を混用し1回散布すると、図のように慣行の防除体系である萌芽期に保護殺菌剤、3葉期にDMI剤を散布した2回散布と比べ発病葉数が少なく、萌芽期に降雨があり薬剤散布が行えない場合に混用1回散布で炭疽病を防除できることが明らかとなった。スクレアフロアブルの降雨後の治療効果期間は7日後まで認められ、10日以降は効果が低下するため、降雨状況をみて防除時期を判断する必要がある。なお、薬剤耐性菌防止の観点からスクレアフロアブルも含めてQoI

I剤の使用は年1回までに抑えた方がよい。

(長崎県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門 茶業研究室 研究員 獅子島惇朗)